

# 「幸せを感じる田舎暮らし」

吉岡 大雅 (27 歳) I ターン  
(西予市)



## 1 就農の動機・理由

初めて農業に興味を持ったのは中学生の頃で、テレビのドキュメンタリー番組で見た田舎の農業者の生活に憧れを抱いたのがきっかけだった。

大学生の時には、農林水産省の補助事業として毎年開催される就農相談会「新・農業人フェア」に参加し、多くの自治体や農業法人等が出展していたなかで、西予市のブースで聞いた話に魅力を感じ、地域おこし協力隊員として遊子川集落に移住することを決意した。

## 2 農業経営の概要

### ○経営の展開

項目	就農時の経営 (令和3年)	現在の経営 (令和5年)	将来の経営 (令和8年)
労働力	男1人(本人)	男1人(本人) 女1人(妻)	男1人(本人) 女1人(妻)
経営耕地	畑 30a	畑 30a	畑 30a
経営内容	夏秋トマト 10a (雨よけ施設)	夏秋トマト 12a (雨よけ施設) ブロッコリー 2a	夏秋トマト 20a (雨よけ施設)

### ○農業用施設

ビニールハウス

4棟

### ○主要農業機械

軽トラック	1台
トラクター	1台
動噴	1台
背負噴霧機	1台
灌水ポンプ	1台

## 3 あしあと

### (1) 就農までの主な経歴

出身地 大阪府

就農研修歴

西予市地域おこし協力隊員

(H30. 6. 1~R3. 5. 31)

就農年月 令和3年6月

### (2) 就農時の思い

何もないところから農業を始めるに当たっては、西予市の地域おこし協力隊制度は大変魅力的であった。

遊子川集落には標高が高い地域の特性を利用した美味しい大玉トマトがある。大玉トマトの生産技術を習得することは難しいとも思ったが地域のトマト農家の皆さんから技術を教えていただけるとの事だったので、決心した。

## 4 就農時の取り組み

### (1) 技術の習得

地域おこし協力隊員として、1年目は地域のトマト農家へ研修に通い栽培ノウハウを学んだ。

2年目には自分でトマト苗800本を定植したが、そのうち300本が肥料の

与えすぎで枯れてしまい、農業の難しさに直面した。

## (2) 資金の準備

3年間の地域おこし協力隊員時に一定の準備ができていたが、10aの雨よけハウス建設に当たっては、JAから資金を借入した。

## (3) 農地・住宅の確保

地域おこし協力隊員として移住してきたので、住宅は遊子川集落で紹介していただき、貸していただいた。

農地についても集落内の方に照会していただき借りることができた。

## (4) その他苦労したこと

ハウスの規模拡大を目指しているが、ハウスを建設できる優良農地がなかなか見つからない。

トマト専作農家を目指しているが、現在は補完作物として、ブロッコリーの試験栽培にも取り組んでいる。

## 5 農業経営の特徴

JAひがしうわトマト部会に加入し、生産・出荷を行っている。

土づくりや肥料は色々調べ、新たな資材を利用してみるなど、試行錯誤している。「もみがら」や「かや」を原料にした堆肥づくりにも取り組んでいる。

## 6 これからの夢

今後の目標は、ハウスの面積を広げ、夏秋トマトだけで家族が生活できるようにすることである。

就農後、結婚し子供にも恵まれ、「不便さ以上に子育て環境は田舎が良い！」と感じている。

## 7 成功したキーポイント

何より、地域の方に色々教えていただいているおかげだと思う。

次に、トマトを大玉まで成長させるのは難しいが、毎日観察する事が大切だと気付いたことである。

## 8 就農を目指す方へのアドバイス

農業は1人だけでできるものではありません。地域の方と打ち解けて、色々な話を聞けるようになってください。

### ○ 指導機関からのひとこと

吉岡さんは新規就農者でありながら、トマト部会内で単収・品質ともに既にトップレベルとなっています。トマトづくりに対する熱意と日々の観察の成果だと思います。

これからも、地域の担い手としてご活躍されることを期待しています。

### 執筆機関

南予地方局農林水産振興部八幡浜支局地域農業育成室  
西予農業指導班

電話番号 0894-62-0407



トマトの管理作業